

令和6年度 東京都立武蔵高等学校及び同附属中学校 学校経営報告

東京都立武蔵高等学校附属中学校長  
東京都立武蔵高等学校長 堀江敏彦

1 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

① 学習指導関係

ア 「中高一貫シラバス」に基づく年間授業計画を策定して、6年間の体系的かつ効果的な学習を行うため、計画的に授業を展開した。

イ 7時間授業の実施により、高校では1単位年間39時間、中学校では年間授業合計数1,100時間の授業を実施した。

ウ 教科主任会を中心に「学力向上推進プラン」に基づき、各教科・科目の指導内容・方法を工夫するとともに、主体的・対話的で深い学びのためのグループ・ワークやペア・ワークの活用、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を図るための「考えさせる問題」の問いかけを全ての授業で実施した。

エ 「学習ポートフォリオ」を活用して、基礎・基本の徹底と発展的な学習内容の定着を進めた。また、5名の教員が授業力向上のために予備校等の研修会に参加した。

オ 補講等では、高校3年生の夏期講座において50講座を設けて、853人が参加した。また「スプリングセミナー」（高校1年生）、「共通テスト同日模試」（高校1・2年生）、「共通テストマラソン」（高校3年生）、共通テスト前後の「特別授業」（高校3年生）などを実施した。特に「ウインターセミナー」（高校2年生）は発展講座40名を含むすべての生徒が参加する形態で実施した。

カ 「地球学」を中心に、持続可能な開発目標（SDGs）に関連した課題等について、教科等横断的な視点で取り組むことができた。

キ ICT利活用については、70%以上の授業でデジタル技術の活用を図り、学習環境等をより一層整えた。

② 進路指導関係

ア 中学校での職場体験の実施に際して、卒業生の協力を得ることで体験先の拡大を図ることができた。中高接続部分では上級学校訪問、高校では進路講演会等を実施した。また、高校生には志望大学や学部に応じた講習や補講等の教員による支援体制により、小論文指導の充実が推進された。

イ 生徒が自己の特性や国際貢献を意識し、自己の進路目標を早期に確立できるよう、6年間の体系的な進路面談計画を策定して各学年2回以上の面談を実施した。また、引き続き、担任からの支援を中心に中学生の「Learning Diary」、高校生の「キャリアパスポート」の活用を促進させた。

ウ 模試分析会を高校では5回、中学で3回実施して、経年変化の数値分析や各教科による問題分析を行って、生徒の状況把握及び授業改善を行った。

エ 志望校検討会を2回実施して、進路志望の分析や個々の進路目標の把握により、効果的な進路指導を実施した。

③ 生活指導関係

ア 生徒に規範意識及び主体的、積極的な学習態度を確立するため、年間を通じた学級活動及びホームルーム活動等を実施した。

イ 中学校での道徳の授業及び地区公開講座や高校における社会貢献活動等の充実を図るなど、全教育活動を通じた道徳教育を進めた。

ウ 盗難防止、交通ルール・情報モラル遵守、薬物濫用防止等の指導の徹底を図るため、

- 中学での安全教室 11 回、高校でのセーフティ教室 3 回など、学級・学年での指導を中高ともに実施した。
- エ 生徒に、キャリア教育の各能力を育成するため、音楽祭、体育祭、文化祭及び各学年での行事等における委員会活動に対して、生徒が行事を主体的に企画・運営できるよう適時適切に指導・助言を行った。
- オ 健康な心と体を育むため、けじめのある部活動を実施して、学習と部活動を両立させるとともに、体力テスト等を活用して基礎体力の向上を図った。
- カ 中学校の部活動数の適正化を図るとともに、中学・高校において部活動の活動時間並びに休養日を適切に設定した。
- キ 感染症予防対策を継続することにより、教育活動を適切に進めた。
- ④ 保健、美化指導関係
- ア 避難訓練を中高合計 15 回実施した。また、中学担任を中心に給食指導における食育を推進した。
- イ 教育相談の充実のため、特別支援教育コーディネーター及び関係学年、スクールカウンセラーや養護教諭等とのケース会議及び拡大学年會を 5 回、発達障害等に関する教員研修などを 1 回実施した。また、特別な支援を必要とする生徒に対しては、学校経営支援センター等と連携して対応した。
- ウ 日常の清掃に加え年間 11 回の「美化デー」を設定した。
- エ 感染症予防対策を継続することにより、保健指導の一層の充実を進めた。
- ⑤ 募集・広報活動関係
- ア 私塾等での学校説明会等に 5 回参加した。都立中学校受検を対象とした私塾等での学校説明会が減少している状況が見られる。
- イ 生徒の表彰や部活動の報告に合わせて学校ホームページの更新に努めて、外部への発信力の強化を図った。
- ⑥ 学校経営・組織体制関係
- ア 30 回実施した企画調整会議で全教職員の情報共有や経営参画を進めた。
- イ すべての校務分掌が、学校経営計画に基づく年間組織目標を設定し、中間総括及び年間総括を実施した。
- ウ 分掌・学年に正副主任を配して、基本方針の策定・企画については担当分掌、具体化と実施については学年や教科が担当する体制を構築し、業務の均等化と複数担当化を図るとともに、効率的な業務遂行に向けシステム化・マニュアル化・スリム化を進め、教職員一人一人のライフ・ワークバランスの実現を図った。
- エ 校内外の異常や危険箇所、防犯・防災等に全教職員が常に留意し、警察や地域（武蔵境自動車教習所等）と連携し生徒の安全・健康を確保した。
- オ 学習環境の向上のため、施設・設備の更新や設置を計画的に行うとともに、教材・教具の調達や外部講師の謝金等の予算を迅速かつ適正に執行した。
- カ 文書管理・発行や電話・窓口対応等は、個人情報に十分留意し、確実に行った。
- キ 広く地域に開かれた学校を目指し、広報活動を充実させた。
- ク 本校での学習に適合できる確かな学力と適性を有する生徒が入学できるよう、募集から入学手続までを適正に実施した。
- ケ 感染症予防対策を継続して、主任養護教諭等による健康管理体制を維持した。

(2) 重点目標と方策、

- ① 中学校 3 年生の進路目標決定率は 160 名 100%、高校 2 年生の志望大学・学部等の決定率は 111 名 99.1%であった。また、学校評価における生徒の授業満足度の肯定的回答については中学 91.0% (91.4%)、高校 87.8% (86.8%) であった。
- ② 中学校でも高校同様に学年・教科担当を中心に分析会 2 回実施した。学力推移調査の中学 3 年生 3 教科の偏差値平均は 64.7 (66.7)、偏差値 70 以上は 40 名 (48 名) であった。高校では大学入学共通テスト受験者は 109 名 97.3%、6-8(9)型受験者は 94 名 86.2% (76%) であった。生徒数 112 名 (103 名) のうち、国公立大学及び難関私

立大学（早・慶・上・理）合格者数はのべ 198 名であった。国公立大学 56 名（42 名）及び難関私立大学のべ 142 名（78 名）であった。難関国立大学等（東京・京都・一橋・東京科学、国公立大学医学部）は 20 名（21 名）であった。

- ③ 「国際社会に貢献できる知性豊かなリーダー」を育成するため、「地球学」により探究活動を推進するとともに、中学校での「キャリアの時間」、高校での「人間と社会」及び「キャリアデザイン」を体系的に実施した。高校 1 年生の「地球学個人課題研究」で 1 2 月 1 2 日に論文を提出して、2 月 2 0 日に発表会を行い、学年代表 16 名（うち 4 名は英語での発表） 3 月 6 日に実施した。
- ④ 海外学校間交流推進校等の指定を受けて、海外語学研修を高校 1 年生で実施するとともに、「使える英語力」の育成に重点を置いたきめ細かい指導を実施している。中学生では英検 2 級以上合格 40%を目標としているが今年度は 66 名 13.8%であった、また高校生の準 1 級以上合格者は 41 名 10.3%であった。  
また、東京サイエンスハイスクール指定校として、中学 3 年生 4 チームが中学科学コンテスト東京大会に出場した。さらに、日本学生科学賞東京都大会では、優秀賞 2 名（2 名）、奨励賞 1 名（3 名）、努力賞 6 名（3 名）であった。高校生は化学グランプリ 2024 で銅賞 1 名の成果であった。
- ⑤ 学校見学会・説明会等を 15 回実施した。ホームページのアクセス回数は、3 月 1 8 日時点で目標である 100 万アクセス（106 万）を超えた。私立志向が高まる中で、応募倍率は 2.4 倍であった。
- ⑥ 情報セキュリティや教育相談等の職務課題に関する研修を年間 6 回実施するとともに、OJT を推進し教職員の資質・能力の一層の向上を図った結果、サービス事故は 0 件であった。